

第23回愛知県老健大会演題発表プログラム

第1部 9:40~10:40

1 目標は在宅復帰！介護士によるフロアリハビリの実践

医療法人財団 愛泉会 老人保健施設 愛泉館 介護福祉士

在宅復帰に向けたADL向上には、個別リハビリテーション以外の時間をどのように過ごすかが重要になってきます。生活の中での運動量を増やすために介護士がフロアリハビリを実施し、その効果で在宅復帰につなげたケースを紹介します。

2 入所前同行訪問の利点と課題（第34回全国介護老人保健施設大会 宮城 優秀奨励賞）

リハビリ以外の専門職の参画による新たな展望

医療法人 仁医会 にしお老人保健施設 彩り 理学療法士

入所生活を出来る限り在宅生活に近づけ、在宅復帰がより円滑になる為にケアスタッフの入所前同行訪問を行い、円滑な情報共有・統一したケアをできる可能性が示唆されたので報告します。

3 ICTを活用したリスクマネジメント改善の取り組み

データ分析による事故予防と環境整備

医療法人 泰玄会 泰玄会老人保健施設 理学療法士

介護老人保健施設における事故報告のICT化により、事故傾向の「見える化」を実現。データ分析に基づく具体的な対策立案と実施により、リスクマネジメントを実施した。

4 ヒヤリハット報告件数の増加を目指して

「報告文化」を浸透させることでインシデントを防ぐ

医療法人 大朋会 岡崎老人保健施設スクエアガーデン 介護福祉士

当施設では、ヒヤリハット報告件数が少なく、事故防止に活かせていなかったため、どうしたら良いのかを考え、試行的に働きかけた結果、報告件数の増加と職員の意識向上につながり、「報告文化」を築く第一歩となった。

5 医療介護安全対策チームの取り組み（第34回全国介護老人保健施設大会 宮城 奨励賞）

医療法人 名南会 名南介護老人保健施設 かたらいの里 介護福祉士

当施設の医療介護安全チームによって職員に対しヒヤリハットの理解を進め、件数を増やせるよう取り組みを行なった。取り組みにより骨折事故の発生数にどのような変化があったのかを時期に分けて報告する。

第2部 10:40~11:30

6 家で最期を迎えたい

自宅看取りをした事例報告

医療法人 清水会 豊明第二老人保健施設 支援相談員

癌末期の利用者様が「自宅に帰りたい」と希望をされた。病状が進行する中、ご家族とも話し合いを行い、自宅で看取ることとなった。サービス調整を行い、自宅退所を行い、ご本人の希望であった最期を自宅で迎えることができた。

7 気づき、自ら動けるチームを目指して

KYTの手法を使った「気付く」為の取り組み

医療法人 幸会 老人保健施設 みず里 介護福祉士

利用者様の中には言いたいことを上手く伝えられない方などがおられる。私達は声なき声に気づくと共に応えていく必要がある。そこでKYTの4ラウンド法に当てはめ、利用者様に寄り添った支援が行えるよう取り組んだ内容を報告する。

8 笑顔に満ちあふれた贈り物

環境作りの大切さを改めて学んだ個人写真撮影会への取り組み

医療法人 豊和会 老人保健施設 かずえの郷 介護福祉士

面会制限を機に利用者ご家族と繋ぐ手段として、個人写真撮影会を開始。活動の過程で利用者は前向きになり、日常に笑顔が溢れ、物事への関心度や表現力の向上など認知機能面も変化した。その中で関わりと環境作りがQOLに大きく影響し得ると実感することができた。

9 グランマの店

趣味活動が作家に！！

医療法人 聖俊会 豊川老人保健施設 ケアリゾートオリーブ 介護福祉士

多様な才能をもった利用者があるデイケアでは作品を見せ合うことで相互の刺激、交流が生まれる。褒めてもらえる喜び、プレゼントして喜んでもらえる満足感。作品を販売し作家としての活動につなげたことを発表する。

第3部 13:00~14:00

10 床走行式リフトの導入による介護負担感の調査

介護機器への印象と移乗時の介護負担要因に着目して

医療法人 瑞心会 老人保健施設 サンバーデン

理学療法士

床走行式リフト(以下:リフター)を導入し、導入前後でのリフターの印象、介護負担感、移乗時の介護負担要因についての調査を実施した。その結果、リフターの導入による介護負担感への影響について知見を得る事が出来た。

11 デイリハビリにおけるプラットホーム待機件数の削減

医療法人 杏園会 介護老人保健施設 トリトン

理学療法士

デイケア利用者様及びセラピストの増加により、プラットホームの待機が多発し業務効率の低下が懸念された為、活動を実施する事で待機件数を0にする取り組みとその結果について報告します。

12 人手不足な毎日!正しい環境整備で事故を防げ!!

誰もがわかるチェックシートで環境を整える

ブラザー健康保険組合 老人保健施設 瑞穂

介護福祉士

人手不足で応援体制が必要となる中、十分な利用者情報を得ていないままケアを行い事故に繋がるケースが存在した。対策として、正しい環境整備をし、誰もがわかる環境のチェックシートを作成し、使用することとした。そこから見えた課題と成果について発表する。

13 ICT(見守りシステム)導入による生産性の向上

ケアの質向上と職場環境の改善

医療法人 愛生館 老人保健施設 ひまわり

介護福祉士

ICTの一つとして「見守りシステム」(動体検知カメラ)を導入した。ケアの質向上業務負担軽減、介護事故のリスク管理等の視点から物理的実測値と客観的にアンケートで比較した。その設置前後の変化を報告する

14 障害者雇用として介護助手を導入した取り組み

雇用率達成と多様な人材の活躍

医療法人 財団善常会 老人保健施設 シルピス大磯

看護師

当施設では、2018年から介護助手に障害者を雇用しており現在も2名が従事している。受け入れ時には障害に対する配慮がある程度必要だが、法定雇用率の達成と有給休暇取得率の上昇や介護職員の負担軽減などの効果が得られた。

第4部 14:00~15:00

15 尊厳と自立を重視したがん終末期利用者のケアの重要性

終末期ケアにおける個別対応のシレンマ

愛知県厚生農業協同組合連合会 介護老人保健施設 あおみ 介護福祉士

本事例では、がんの緩和医療を受けた後に入所した利用者の要望に応じた支援を提供する一方で、公平性を保つ調整が重要であった。この実践を通じ、利用者一人ひとりのニーズに柔軟に対応する必要性が確認された。

16 口腔ケアの取り組み

疾患予防と健康維持に繋がる重要性を理解する

医療法人 幸世会 介護老人保健施設 セントラル堀田

介護職員

高齢者の口腔ケアが重要である事は周知の事実である。当施設では毎食後、利用者様の口腔ケアを行っているが、スタッフの知識にばらつきがあるため、口腔ケア改善に向けて様々な取り組みを行った。その内容と結果を報告する。

17 これからの生活期リハビリテーションに求められる在り方

いつまでも自分らしく生きていくために

医療法人 豊和会 介護老人保健施設 さなげ

理学療法士

電子機器の進化は、女性の暮らし方や趣味・娯楽の多様化を進めており、リハビリテーションにも時代に適した内容の工夫が必要である。アンケート調査から、QOLの維持・拡大には、電子機器使用し個人のニーズに応じた支援が必要になると示唆された。

18 訪問から通所リハビリへの円滑な移行をするには

通所リハビリへの移行者と併用者の比較

ブラザー健康保険組合 老人保健施設 瑞穂

理学療法士

当事業所内で通所と訪問リハビリを併用者において、訪問リハビリを卒業できた要因を考察した結果、早期に屋外活動を視野に入れた目標設定し達成することが移行の一因と分かった。

19 誤嚥性肺炎を繰り返す症例への取り組み

口腔・栄養・リハビリを通して

医療法人財団 愛泉会 老人保健施設 愛泉館

言語聴覚士

80歳代の男性は誤嚥性肺炎を繰り返していたが、再発を機に口腔・栄養・リハビリの側面から取り組みを開始した。その結果、傾眠で誤嚥を繰り返しながらも、長期に渡り誤嚥性肺炎を防ぐことができたので報告する。